

# ちなみに、

こんにちは、きみちゃんです。12年ぶりに赤ちゃんとの生活が始まりました。名前は「珊瑚の音」と書いて「瑚音(こと)ちゃん」です。ということで、出産を機に家庭教育支援事業でも妊娠期からの情報発信、相談受付(匿名可)を始めます!左のQRコードからお気軽にご登録ください!



二年ぶりの出産は、小柄ながらも大きな産声をあげるわが子の元気な姿をみてひと安心...と言いたところですが、なんと無呼吸発作がみられ、救急搬送される事態に。一時は心配する日々が続きましたが、発達とともに症状は落ち着き、予定通りにはいらない、を実感しています。最近、授乳の間隔やうんちの回数のようなちょっとしたこと気がなると、ネットで調べては不安になったりほっとしたりで、長女の時もわからないことばかりだったなあと二年前を思い出しながら、育児に奮闘しています。

昨年度「家庭教育支援員」に委嘱され、これまで小学生を対象とした活動を中心にしてきましたが、「こども」妊娠・出産期から継続した家庭教育支援の在り方」を考えていきたいな...という思いがむくむくと育ってきました。産後には、知名町でも保健センターによる「こどもにはあかちゃん事業」(生まれてから四か月までの母子を母子保健推進員・保健師等が訪問し、育児相談や助言等を行う)が実施されていますが、例えば五か月以降やお父さん、祖父母の立場だったら、相談したいことがあってもどこに行けばいいかわからなくて困ってしまうかもしれません。また、現状では成長するにつれ、相談先がこども園に、各学校にと変化することが多いと思うのですが、先生との距離が近すぎて本音で話せなかったり、すべての相談が園や学校に集中することで教職員の仕事量が増えてしまったり...といった課題も耳にしています。それに、ちょっと「行けばいいわや」で相談するほどのことじゃないかも...と遠慮してしまふこともあるかもしれないなとも感じています。

来年度はそんな課題を解決するしくみづくりをしていこうと、先月、家庭教育支援運営委員会を開催し、委員のみなさんの意見をお聞きすることができました。関係各所と連携し、さらに子育てしやすい町を目指していきます。ちなみに、協力隊はお休み中ですが、家庭教育支援員としては活動中ですので、お気軽にお声がけください!



1\_お姉ちゃんがお世話してくれて大助かり! 2\_えらぶに帰ってきました! 3\_家庭教育支援員のLINE@で育児コラムを書いてみようかな... 4\_家庭教育支援協議会の研修にて。 5\_いろいろな地域のおもしろい学びにふれる探究学習フェスに行ってきました!

# 知名人 Interview

## 第3回 武原智美さん



談話:中村 暁

楽しいことは、みんなでしたらもっと楽しくなると思っくんです。みんな子どもを育てあえたら、すごく楽しいだろうな。

えらぶのお母さんたちってすごく忙しいんです。大した事はできないけど、頼って、って思います。

余多塾をはじめたキッカケを教えてください。

末の子の産休・育休期間中、むちゃくちゃ幸せだったんです。子どもたちが帰ってきた時「おかえり」って言いたいの一言が言えなかったり、仕事をしていることで、やってあげたいことができなかつた我慢

がすごくあったんです。育休期間、ウチが近所の子どもたちの溜まり場みたいになってたんですね。学校から帰ってきたらウチに集まって勉強して、みたいな。それがすごく嬉しかったんです。みんなホントに可愛くて、何かしてあげたくなっちゃうんです。

すよね。「リンゴ食べる?」とか「ポテト揚げようか?」とか、世話焼きババアです(笑)。えらぶのお母さんたちって、すごく忙しいんです。朝早くに仕事に行って、お兄ちゃんが下の子たちに朝ご飯食べしに行かせてたり。昼も帰れなくて、子どもが1人でカップラーメン食べてたり。私はそういう時は頼って欲しいと思ってるんです。でも、自分が

逆の立場だったらやっぱり「ごめん!!」って思うと思う。そういうのを、どうにか気を遣わないでできる場所があればいいのにな...って、何ができるかずっと考え込んで。調べてみたら、育成会の活動の中に含まれば、何かあった時に保険でフォローされるっていろいろのがわかって、区長の前田安彦さんに相談しました。そうしたら、「そういうのは大賛成だよ!」って応援してくれて、実現できることになったんです。

自分の子育てが終わっておばあちゃんになっても活動が続けられてたら、その時褒めてください(笑) やってみてどうですか? 自分がめっちゃ楽しくて(笑) 子どもたちが8時半くらいから一鍵あけたら、「とかって家に呼びに来るわけ。可愛くて仕方ない(笑) こっちが元気出ちゃうんです。1人で大勢の子どもたちをみるのは大変では? 「塾」という名がついてますが、特別なことを教えているわけではないんです。1年生が「宿題わからない!」と言えば、「6年生!」教えてあげて!」って(笑)。子どもたちはすごい。言えど何でもやってくれます。私は見守りとしてのだけです。

この活動ができるのは本当に地域のみなさんのお陰なんです。講師もフルボランティアで、やじ豆作りや味噌作りの時に子どもたちのために材料を提供していただいたりしました。今後やっていきたいことは、子どもが子どもの頃「シンヤのばあちゃん」って呼ばれている人がいて。その人が家族の一員みたいにずっと良くしてくれるから、で、つきり血が繋がっているものと思っくんです。お腹空いたよ」とか「のど乾いたよ」とか遠慮せずになんとも言えんですすよね。その人を指します(笑)。